

# Specialized Youth Exchange Program 2025 - 2026

## 令和7年度 福岡県・バンコク都アントレプレナーシップ 人財育成事業 報告書



福岡県・バンコク都アントレプレナーシップ人財育成事業実行委員会  
(福岡県企画・地域振興部国際局国際交流課)

令和7年度

# 福岡県・バンコク都アントレプレナーシップ

## 人財育成事業 報告書

### 目次

概要	02
参加者・事業成果	03
事前研修	09
海外プログラム	10
ブラッシュアップ研修	12
国内プログラム	13
参加者報告書	15
募集要項	19
募集チラシ	22

## 1 目的

福岡県とバンコク都の大学生や社会人を相互に派遣し、スタートアップ企業の訪問やグループワークなどを通じて、経済発展や社会変革に貢献するアントレプレナーシップ(起業家精神)を持つ人材の育成を図る。

## 2 概要

### (1)参加者

福岡県の大学生 6名、バンコク都の大学生・社会人 6名

### (2)事業内容

スタートアップに関心のある福岡県とバンコク都の大学生や社会人を相互に派遣し、スタートアップ企業への訪問やグループワークによる社会課題の解決につながるビジネスプランの立案を行う。また、国内外で活躍する起業家とのオンラインによるメンタリング(主にビジネスアイデアのブラッシュアップを目的とする)などを通じて、アントレプレナーシップを身につける。

### (3)事業日程・内容

#### (1)事前研修 日程:令和7年12月6日(土)、7日(日)

プログラム概要の説明、参加者同士の自己紹介、福岡県・バンコク都の概要説明、渡航に際しての注意事項の説明、ソーシャルビジネスの事例紹介、ビジネスアイデアの作り方ワークショップ、グループワークなど

#### (2)海外プログラム 日程:令和7年12月21日(日)~26日(金)

1日目:渡航・参加者顔合わせ  
2日目:ワークショップ、バンコク都知事表敬訪問、寺院視察  
3日目:行政機関訪問、施設訪問、企業訪問  
4日目:グループワーク(ビジネスモデルワークショップ)  
5日目:グループワーク、中間報告会  
6日目:帰国

#### (3)ブラッシュアップ研修 日程:令和8年1月~2月

4人1組に対して、1名の社会起業家メンターが伴走。各グループが考えたビジネスアイデアに対して、自身の起業経験をもとにアドバイスを送り、ビジネスアイデアのブラッシュアップを行う。

#### (4)国内プログラム 日程:令和8年3月8日(日)~13日(金)

1日目:バンコク都参加者来日・福岡県内視察  
2日目:企業訪問・社会起業家との対話・福岡県知事表敬訪問・タイ総領事館表敬訪問  
3日目:福岡市内の起業支援施設視察・グループワーク  
4日目:福岡県内視察・グループワーク  
5日目:最終成果発表会・振り返り・福岡県内視察  
6日目:バンコク都参加者帰国

参加者

氏名	大学・企業
源島 優奈	福岡女子大学 国際文理学部
川津 葵	中村学園大学 栄養科学部
NAKHARIN SORMAD	株式会社 Atlantic Education School Group
JAYDA SIMON	チュラロンコン大学 文学部語学文化学科
峠 慶太郎(メンター)	BLJ Philippines Inc.



課題意識:「高齢者の孤独・孤立問題」

日本とタイの両国で、少子高齢化は課題となっている。特にタイでは、シニア向けの雇用機会が少なく、より問題が深刻化することが想定されているため、高齢者の強みを生かしたソリューションが必要である。

成果報告の概要

日本とタイの両国で課題となっている高齢者の孤独・孤立問題の解決を目的に、高齢者に雇用を生み出す飲食店のビジネスモデルを検討した。バンコクではテイクアウトやデリバリーの普及率が高いことを踏まえ、固定費を抑えるために、まずはデリバリー型の店舗から開始するなど、具体的な事業展開のアイデアを検討した。

最終成果報告会での講評

<NIDAビジネススクール センター長 Danuvasin Charoen氏>

このレストランによって、実際にどの程度の雇用を創出できるのかが重要である。スラムエリアは人口が多く、20~30人程度の雇用では問題の根本的な解決にはつながりにくい可能性がある。また、高齢者を雇用することの独自の価値についても、より明確にする必要がある。例えば、「お袋の味」を提供できるなど、通常のレストランにはない魅力を打ち出せれば、事業としてさらに広がりが期待できるだろう。

<株式会社Zero-Ten Park 小野 旬氏>

ビジネスとして十分に成立し得るアイデアであると感じた。一方で、高齢者を実際に雇用する場合には、職場まで自力で通うことができるのかといった実務面の検討も必要である。細かな点ではあるが、実際に事業化する際には重要な論点になると思われる。

<株式会社ボーダレス・ジャパン 代表取締役 田口 一成氏>

日本とタイの両国に共通する課題に着目した、とても意義のあるアイデアである。特に重要なのは、当事者である高齢者が本当に働きたいと考えているのか、また、どの程度の時間や条件であれば無理なく働けるのかを丁寧に把握することである。なぜ高齢者が働きたいのかという背景まで含めて深く理解することができれば、より実効性の高いモデルとなり、将来的に全国へ展開していく可能性もあるだろう。

グループA



### 3 THINGS WE MUST DO TO HELP OLDER PEOPLE IN THAILAND

**CREATE MORE JOBS FOR OLDER**

- In 2024, about 34% of Thai seniors were still working, meaning most are not in jobs but may still want or need work.
- Meanwhile, about 35.5% wanted to work but did not have job opportunities.

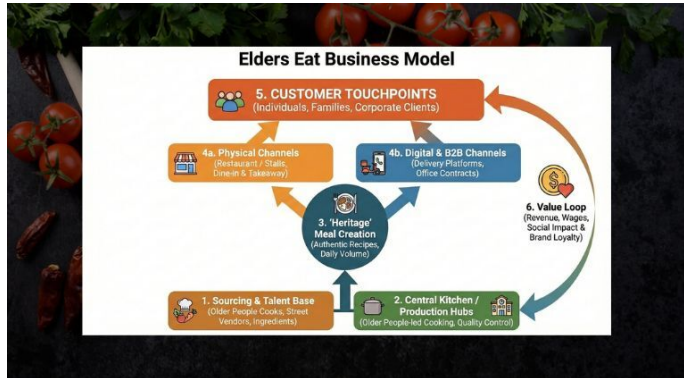
**IMPROVE FINANCIAL SECURITY**

- Thailand's elderly allowance (e.g., 600-1000 THB per month) is often below the poverty line for basic needs.
- Roughly 36.9% of multidimensionally poor people (which includes income, health, education) are elderly.

**PREVENT MENTAL HEALTH RISK**

Studies in Thailand show that loneliness among older adults is linked to higher rates of depression and poorer health, especially for those who stay home most of the time

Source: Thailand National Statistical Office – Older Persons Survey



### TaRGET Customer Profile

<b>Target Customer</b>	People in community Office workers
<b>Lifestyle &amp; Behavior</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Busy, fast-paced lifestyle</li> <li>• works long hours, feel tired</li> </ul>
<b>Needs</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• quick and convenient meals</li> <li>• Cleanliness &amp; safety</li> <li>• Good quality food</li> </ul>
<b>Motivation to Buy</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Save time &amp; energy</li> <li>• Avoid Decision Fatigue</li> </ul>

### SPECIFIC PRODUCTS AND SERVICES

**01 DAILY FOOD SERVICE**

Affordable Thai home-style meals prepared fresh every day.

**02 DIRECT FOOD DELIVERY**

Customers can order meals through delivery platforms or direct ordering.

**03 MEAL CONTRACT WITH COMPANIES**

We provide daily staff meals for offices, factories, and organizations.

**04 CATERING SERVICE**

Food services for meetings, events, and community gatherings.

### PRICING STRATEGY

Category	Typical Street Price (THB)	Elders Eat Target Price (THB)
Daily Meal	40-80 THB	60-100 THB (Clean, balanced, same price level)
Dessert	50-80 THB	50-90 THB
Delivery & Set Meals	100-200 THB	Competitive at ~120-180 THB
Corporate Meal Contract	N/A	Affordable negotiated rates

Typical street food prices in Bangkok

### REVENUE STREAMS & GROWTH

**1. Dine-in**

Avg meal = 100-120 THB

100-200 customers/day

940-1180 THB/month

**2. Delivery (20-30% Boost)**

All extra orders by Aug 31st (2024)

1.6M THB/month extra

**3. Meal Contracts (Fixed Revenue)**

60 meals each business day

60 THB each

108 THB/month

**4. Event Catering**

Birthdays, Meetings, Community

**Brand social impact concept**

Menu Ingot, Sponsored Meal

Approx. x 1.1M THB/month

60k THB THB/month

30k THB/month

**Corporate CSR partnerships / CSR funding**

• Grants for elderly employment

20k THB/month support

**TOTAL POTENTIAL 986k - 1.16M THB**

参加者

氏名	大学・企業
田崎 壮	九州産業大学 地域共創学部
古賀 月海	西南学院大学 人間科学部
NALINRAT THUTHUBTHIM	マヒドン大学 国立児童家族研究所
WARINTORN SENG SUWAN	ラーチャブラナ学校 先生助手(英語)
御田 麻友(メンター)	Re: leaf inc. 代表取締役



課題意識:「障がい者の貧困問題」

障害を持った方の中でも、特に貧困状況にある人々は安定した職に就くことが難しく、困窮状態から抜け出せない状況にある。そのため、スキルがない方でも場所にとらわれずに働くことができる、新たな就労機会の創出が必要である。

成果報告の概要

日本とタイの両国で課題となっている障がい者の貧困問題の解決を目的に、AI関連業務のノウハウを提供し、企業から業務を受託するプラットフォーム型ビジネスを検討した。データアノテーションなどのデジタル業務を通じて、場所や身体的制約に左右されない就労機会を創出し、障がい者の安定した収入確保と社会参加の促進を目指すアイデアである。

最終成果報告会での講評

<NIDAビジネススクール センター長 Danuvasin Charoen氏>

ビジネスモデルやソーシャルインパクトは的確に設計されている。一方で、今後AIに代替されにくいスキルを、障害を持つ方々の能力を活かしながら習得していくという視点を加えることができれば、より大きな社会的インパクトが期待できるだろう。

<株式会社Zero-Ten Park 小野 旬氏>

ビジネスアイデアとしてはユニークであるが、当事者の立場で考えると、データ分析の業務だけを継続して行うことは魅力的な仕事とは感じにくい可能性がある。サービスの内容については、より幅広い可能性を検討していく余地があるのではないかと。

<株式会社ボーダレス・ジャパン 代表取締役 田口 一成氏>

プラットフォームとして、企業やNGO、政府などと長期的な関係性を構築しながら仕事をオーガナイズしていく点はユニークであり重要である。事業の展開方法としては、デジタルワークの中でもアノテーション業務などに特化してスタートし、段階的に領域を広げながら品質を高めていく方法も考えられる。そうした形で実績と信頼を積み重ねていくことで、より持続的かつ社会的インパクトの大きい事業へと発展していく可能性があるだろう。

グループB

**DIGIABILITY**  
Ability to Opportunity

presented by:  
TEAM B

Encounter with social issues



Encounter with Auntie Pim

- Living in a poor area
- Lacking education
- Having a physical disability

The Harsh Reality She Faces

- Relys on daily manual labor
- Unstable, low income

Identified Needs

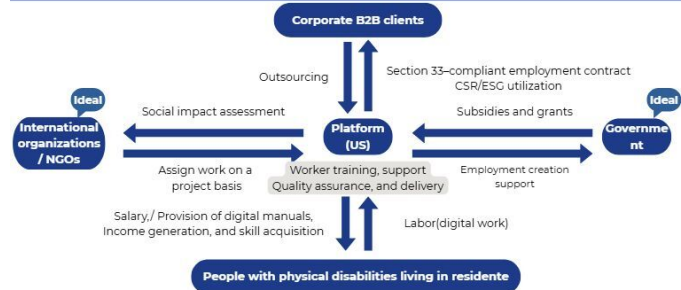
- stable non physical work
- steady income

**Primarily living in poor areas with limited access to education**

Source: Ministry of Social Development and Human Security (MSDHS), Persons with Disabilities Statistics, as of 30 September 2025.

It shows that individuals with **physical or mobility disabilities** constitute the **largest group** of persons with disabilities.

Business Model Map/ Target Customer



**Our service**

**DIGIABILITY**

RECEPTION

DETAILED BREAKDOWN

**Cost Comparison | AI vs Human**

Scenario: 10,000 tasks / month

COST METRIC	AI Solution	Human Resources (2 Staff)
Initial Cost	¥3,000,000	¥200,000 <span>Low Entry</span>
Monthly Fixed Cost	¥800,000	¥500,000
Annual Cost (1st Year)	¥12,600,000	¥6,200,000
Annual Cost (2nd Year)	¥9,600,000	¥6,000,000
3-Year Total Cost	¥31,800,000	¥17,532,000 <span>Cheaper</span>
Unit Cost per Task	1st Year: -¥105 2nd Year: -¥88	1st Year: -¥52 2nd Year: -¥51

**The Vulcan Solution**

Achieving Legal Compliance and Cost Optimization through Inclusive Employment

**3 Merits**

- Avoid Contribution Payments
- Ensure Legal Compliance
- High-Quality Operational Output

Proposal  
We believe this system should be adopted by your company. It transforms compliance costs into value-creating partnerships — accelerating AI implementation while contributing to society.

**Social impact**

- 1 No poverty**
  - Stable Income
  - Basic Needs Access
  - Economic Security
- 8 Decent work and economic grow**
  - Supports private-sector inclusion and compliance with Thailand's disability employment framework
- 11 Sustainable and communities**
  - Community-Based Work
  - Reduced Mobility Barriers
  - Local Economic Resilience

参加者

氏名	大学・企業
鶴元 葵	西南学院大学 外国語学部
岡村 妃菜	九州産業大学 国際文化学部
RASITA SRIVILAIVED	キングモンクット工科大学北バンコク校
SANCHAI ASAVATAWEECHOK	株式会社 Agoda Services 政府機関連携部
白石 達郎(メンター)	アノテーションサポート株式会社 代表取締役



課題意識:「文化の消失と若者の機会格差問題」

伝統的な文化が失われつつあること、また貧困家庭の若者はスキル習得などの機会が少なく、貧困の連鎖から抜け出すことが難しい状況にあることは、両地域に共通する課題である。

成果報告の概要

日本とタイの両国で課題となっている伝統文化の消失や若者の機会格差の解決を目的に、手に職をつけるスキルの習得につながる体験教室を提供する施設の運営をビジネスアイデアとして検討した。具体的には、タイでも人気のある「盆栽」を題材とした教室をスラムに住む子どもたちに提供し、教室で制作した盆栽を自社プラットフォームを通じて販売するモデルを構想した。

最終成果報告会での講評

<NIDAビジネススクールセンター長 Danuvasin Charoen氏>

スラム街でも最低限の教育機会の提供をしているところはある中で、このグループのユニークな点は、知識だけでなくスキルを提供することにある。課題として、スラム街では高単価な闇バイトのようなものに手を染める子ども達もいるため、どうすればこのサービスに興味をもってもらおうかを考えていく必要がある。また、市場をタイに限定せず日本や海外への展開も視野に入れるとより大きなインパクトを生み出すことができるだろう。

<株式会社Zero-Ten Park 小野 旬氏>

スキル習得につながる機会を場所とセットで提供するというのはとてもいいアイデアだと思う。サービスのネーミングについては、より人々が希望を持てるものにしていいのではないかな。

<株式会社ボーダレス・ジャパン 代表取締役 田口 一成氏>

生活を整えるための手段として盆栽を作るサービスを提供し、それをプラットフォームで販売するというアイデアについては、素晴らしいと思う一方で、盆栽に限定するのはもったいないため、プラットフォームを提供するビジネスモデルだけでなく、ユースエンタープライズのような形で、若者に対して多様な職種を提供できるとより社会的なインパクトも大きくなるのではないかな。

グループC



### Ploy Mongkol

- 18 years old
- Female
- High-school student
- Lives with her chronically-ill grandmother in the Khlong Toei community, work at KFC after school until midnight.

**She wants to pursue her career in arts and culture but the career path is unstable and receive low income.**

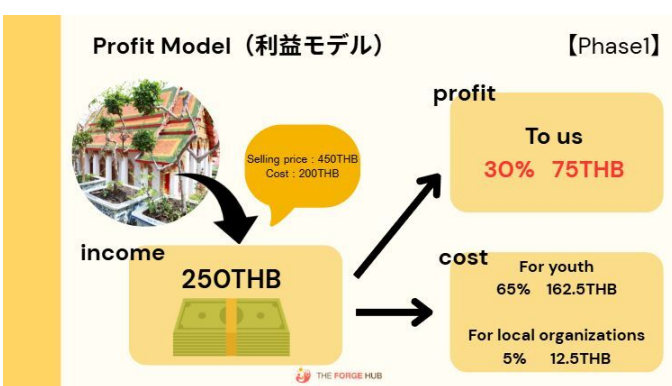
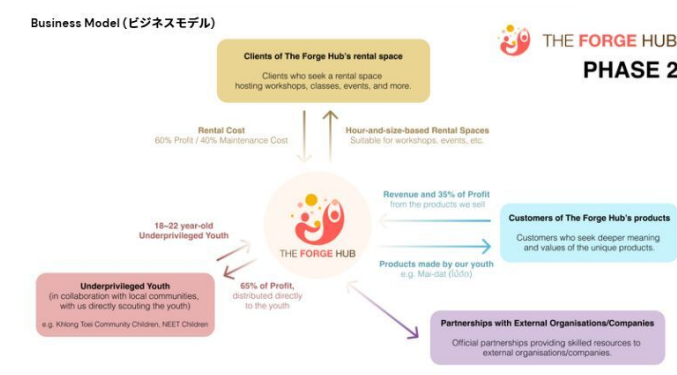
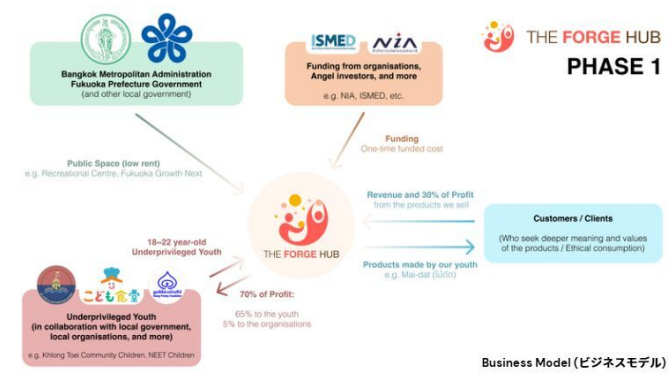
**Her grandmother has a diabetes and heart disease, so Ploy must tirelessly work overtime to gain more income.**

**But HOW?**

### Our first pilot product: ไม้ดัด (Mai-dat)

#### Why Mai-dat (ไม้ดัด)?

- Cultural Significance and Values**
  - Khlong Toei's unique product
  - Still niche market: can be expanded
- Local products by Local youth**
  - Ethical consumption
  - Direct support to the youth
- Growing market of in-door gardening**
  - Urban lifestyle & limited living space
  - Demand for low-maintenance green decor (484K+ members on FB)



### Social Impact (ソーシャルインパクト)

Our goal:

- ★The underprivileged youth will be fully skilled
- ★60% of them will achieve the economic independence
- ★Their monthly income will be increased by 40% in the first 2 years

[SDGs Impact Areas]

- SDG 4: Quality Education
- SDG 8: Decent Work and Economic Growth
- SDG 10: Reduced Inequalities

## 概要

プログラム概要の説明、参加者同士の自己紹介、福岡県・バンコク都の概要説明、渡航に際しての注意事項の説明・ソーシャルビジネスの事例紹介、ビジネスアイデアの作り方ワークショップ、グループワークなどを行った。

### 2025年12月6日(土)

		アジェンダ
10:30	11:30	オリエンテーション
11:30	12:00	オープニング
12:00	12:30	両地域の紹介
12:30	13:30	昼休憩
13:30	14:30	ゴール共有ワーク
14:30	15:20	ソーシャルビジネス講座
15:20	15:30	休憩
15:30	16:30	グループ分け
16:30	16:40	クロージング
16:40	17:00	振り返り・事務連絡

### 2025年12月7日(日)

		アジェンダ
11:00	11:20	オープニング
11:20	12:20	ソーシャルコンセプト講座
12:20	13:20	ソーシャルコンセプト作成
13:20	14:20	休憩
14:20	16:00	グループワーク with メンター
16:00	16:10	休憩
16:10	16:40	アクションプラン決め
16:40	17:00	振り返り・クロージング
17:00	17:30	渡航オリエンテーション

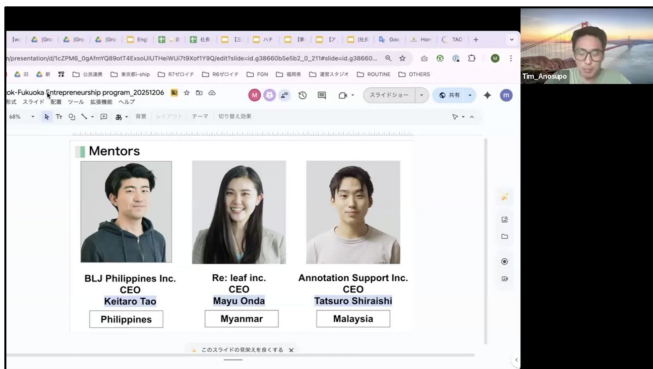
## 当日の様子



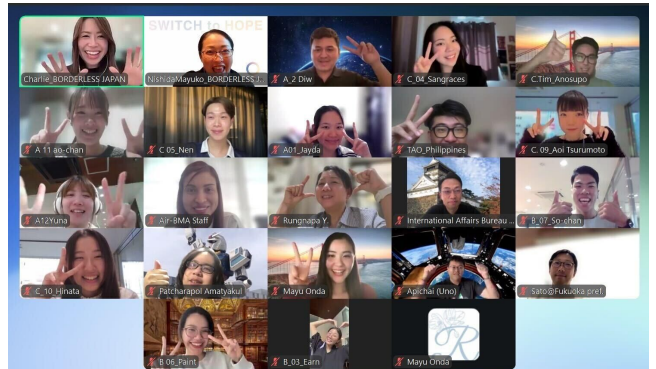
福岡県によるバンコク都の説明の様子



福岡県と参加者の集合写真



メンターとの顔合わせの様子



バンコク都参加者との研修後の集合写真の様子

## 概要

- 12月21日(日) 渡航、夕食(オリエンテーション)
- 12月22日(月) ワークショップ、バンコク都知事表敬訪問、寺院視察
- 12月23日(火) 行政機関訪問(クロントイ区役所)、  
施設訪問(ドゥアン・プラティーブ財団)、  
企業訪問(True Digital Park)
- 12月24日(水) グループワーク(ビジネスモデルワークショップ)
- 12月25日(木) グループワーク、中間報告会
- 12月26日(金) 帰国

## 視察先

- (1) クロントイ区役所
- (2) ドゥアン・プラティーブ財団
- (3) True Digital Park

### <ワークショップ>

NIDAビジネススクールセンター長 Mr. Danuvasin Charoen



チャチャート バンコク都知事 表敬訪問



クロントイ区役所にて



ドゥアン・プラティーブ財団にて



True Digital Parkにて



参加者同士でビジネスプランの話し合いをする様子



中間発表会前のグループワークの様子



中間発表会でのグループ発表の様子



フィールドワークの様子



ドワン・プラチーフ財団で説明を受けている様子



True Digital Parkで説明を受けている様子



バンコク都内視察の様子



ウェルカムディナーの様子

## 概要

4人1組に対して、1名の社会起業家メンターが伴走。各グループが考えたビジネスアイデアに対して、アジアでの起業経験をもとをアドバイスを送り、ビジネスアイデアのブラッシュアップを行った。

1回目:1月14日(水) 21:00～22:00

2回目:2月 4日(水) 21:00～22:00

※3チーム合同実施

## 講師(社会起業家メンター)



### 【グループA】

企業名: BLJ Philippines Inc.

肩書: 代表取締役

氏名: 峠 慶太郎

拠点: フィリピン

テーマ: 貧困問題・養鶏事業



### 【グループB】

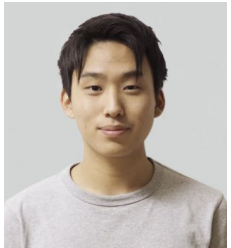
企業名: Re: leaf inc.

肩書: 代表取締役

氏名: 御田麻友

拠点: ミャンマー

テーマ: 貧困問題・農業・ヘルスケア



### 【グループC】

企業名: アノテーションサポート株式会社

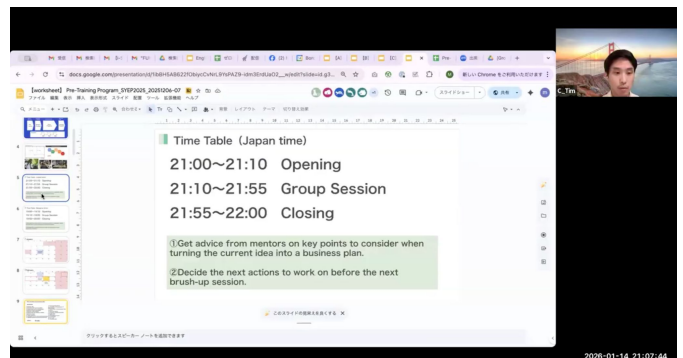
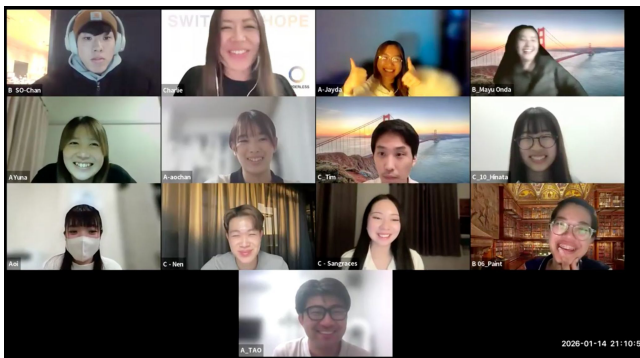
肩書: 代表取締役

氏名: 白石達郎

拠点: マレーシア・フィリピン

テーマ: 無国籍問題/AIのアノテーションサービス

## ブラッシュアップ会の様子



## 概要

- 2月8日(日) 入国、福岡県内視察(八女市星野村)
- 2月9日(月) 表敬訪問(福岡県庁、福岡県議会、在福岡タイ王国総領事館)、  
企業視察(LIB Jewelry)、社会起業家との対話、ウェルカムパーティー
- 2月10日(火) スタートアップコミュニティでの交流・グループワーク
- 2月11日(水) グループワーク、文化体験(太宰府天満宮での着物体験)
- 2月12日(木) 最終成果発表会、振り返り
- 2月13日(金) 出国

## 視察先

- (1) 株式会社ボーダレス・ジャパン LIB Jewelry
- (2) Fukuoka Growth Next
- (3) CIC FUKUOKA

### <社会起業家との対話>

株式会社ボーダレス・ジャパン(講師: 代表取締役社長 田口 一成氏)

## 企業訪問・最終成果発表会の様子



LIB Jewelry講義でのグループワークの様子



社会起業家(ボーダレス・ジャパン田口氏)との対話



福岡県知事表敬訪問



最終発表会での集合写真

# 国内プログラム

## 表敬訪問・視察・ ワークショップ・最終成果発表会の様子



福岡県議会表敬訪問



在福岡タイ王国総領事館表敬訪問



CIC FUKUOKAの説明を受けている様子



Fukuoka Growth Nextでのグループワークの様子



最終発表会の様子(ビジネスプラン発表)



最終発表会の様子(ゲストアドバイザーによるコメント)



八女市星野村にて



太宰府天満宮にて

# 参加者 報告書

川津 葵 中村学園大学 栄養科学部 1年

## (1) 海外プログラムを通しての学びや変化

海外プログラムでは、実際にスラム街を訪れた経験が大きな学びとなりました。劣悪な生活環境の中で多くの人々が日々生活している現実を目の当たりにし、これまで教科書やメディアを通して理解していた社会課題が、自分ごととして強く認識されるようになりました。また、現地でのワークショップでは、語学力にとらわれず伝えようとする姿勢の重要性を学び、積極的にコミュニケーションを取る意識へと変化しました。

さらに、アイデアを広く出し合いながら絞り込むプロセスに触れ、チームでの意思決定の新たな方法を学びました。

## (2) 国内プログラム(企業視察・起業家との対話)を通しての学びや変化

国内プログラムを通して、ソーシャルビジネスに対する捉え方が大きく変化しました。事例を通じて、一見価値がないように見えるものでも、視点や仕組みを変えることで新たな価値を生み出せることを理解し、課題解決の可能性の広がりを実感しました。

また、起業家との対話からは、物事をシンプルに捉え、まず行動することの重要性を学びました。加えて、初期段階では多様な経験を積み、フィードバックを受けながら成長することの大切さや、将来的には価値を提供する側へと移行する視点を学びました。さらに、事業づくりにおいては、具体的な数値目標を設定し、進捗を継続的に確認するという基本の重要性を再認識し、「考え方」と「行動」の両面で自身のスタンスに変化が生まれました。

## (3) 国内プログラム(グループワーク)を通しての学びや変化

英語力への不安から当初は十分に貢献できないのではないかと懸念がありましたが、メンバーの協力的な姿勢に支えられ、自分の意見を伝えようとする行動へと踏み出すことができました。その結果、完全ではないものの、自身の考えを共有できたという実感を得ました。

一方で、言語面の制約から細かなニュアンスを伝えきれなかったことや、議論の進め方に違和感を持ちながらも発言できなかった点は課題として残りました。この経験から、異なる文化や言語環境の中でこそ、自分の意見を伝える姿勢や勇気が重要であることを学びました。

## (4) 私が考えるアントレプレナーシップ

これまで起業は特別な人が行うものという印象がありましたが、実際にビジネスプランを考える経験を通じて、そのプロセスを具体的に理解し、自分にも挑戦できる可能性を感じるようになりました。

また、起業は個人で完結するものではなく、周囲との協力や信頼関係の上に成り立つものであることを学びました。これらの経験から、アントレプレナーシップとは単なる事業創出の力ではなく、人と関わりながら価値を生み出していく姿勢であると捉えるようになりました。

## (5) 今後に向けて

語学力だけでなく、それを恐れずに活用する姿勢や、多様な文化を理解しようとする意識を得ることができました。今後は、異なるバックグラウンドを持つ人々との交流をさらに深め、各国の課題や価値観への理解を広げていきたいと考えています。また、多様な人々が気軽に交流できる環境づくりを進めていくとともに、将来的には社会課題の解決に関わる行動へとつなげていきたいと考えています。

源島 優奈 福岡女子大学国際文学部 1年

## (1) 海外プログラムを通しての学びや変化

バンコクは非常に発展しており、街の活気や都市の規模から、福岡以上に発展していると感じる場面もありました。一方で、スラム街を訪れた際には、発展の裏側に大きな社会格差が存在していることを実感しました。実際に学校へ通うことができない子どもたちがいる現状を知り、自分が教育を受けられている環境のありがたさを改めて感じるとともに、こうした社会課題の解決に貢献したいという思いが強まりました。

また、子どもたちの教育機会を広げるために活動している方々の考え方や取り組みに触れ、1日1パーツという低価格で子どもを預かり教育を提供し続けている姿勢に大きな感銘を受けました。現地での体験を通して、社会課題の現実を自分の目で見ることの重要性を実感しました。

## (2) 国内プログラム(企業視察・起業家との対話)を通しての学びや変化

田口さんのお話を伺うまでは、ソーシャルビジネスはボランティアの延長のようなもので、始めるハードルが高いものだと考えていました。しかし、具体的な起業の経験談や、慈善性だけでなく利益の視点も含めたお話を聞くことで、ソーシャルビジネスが「ビジネス」として成立し得るものだと現実的に考えられるようになりました。特に印象に残ったのは、ビジネスを考える力には経験が不可欠であるという言葉です。今回のプログラムを通してビジネスを考えることの難しさを実感しましたが、同時に、もっと学び努力していきたいという前向きな気持ちを持つことができました。

## (3) 国内プログラム(グループワーク)を通しての学びや変化

グループワークでは、バンコクで作成したビジネスプランへのフィードバックを踏まえ、より実現性の高い内容へと改善を重ねました。前回のプランには理想的な部分も多くありましたが、具体性に欠ける点もあり、今回は実際にビジネスとして成立するかという視点から議論を深めました。

また、どの社会課題を解決したいのか、最終的にどのような状態を目指すのかという目的を明確にすることの重要性にも気づきました。議論の中では反対意見も出ましたが、改めて全員で考え直すことで見落としていた点に気づき、より良い案を導くことができました。この経験から、実現可能性を冷静に考えながら最善の解決策を探り続ける姿勢の大切さを学びました。

## (4) 私が考えるアントレプレナーシップ

アントレプレナーシップとは「不確実な状況の中でも課題解決に向けて最善の方法を考え続け、行動し続ける姿勢」であると考えられるようになりました。ビジネスプランを検討する過程では、これまでの案を見直す場面もありましたが、失敗の可能性を受け入れながら議論を重ねることで、より良い解決策に近づくことができました。社会課題の解決には、理想だけでなく実現可能性を冷静に考え続ける姿勢が重要であると感じました。

## (5) 今後に向けて

今回、タイのメンバーと英語で議論しながらビジネスプランを考えるなど、自分にとって初めての経験が多くありました。

また、バンコクの社会環境を実際に見たことで、社会課題の解決に関わりたいという思いがより強くなりました。宗教による食文化の違いなど日本との文化の違いにも気づき、多様な価値観を理解することの大切さも学びました。今後も社会課題解決に向けた活動やプログラムに積極的に参加し、今回得た学びを自分の行動につなげていきたいと考えています。

## 古賀 月海 西南学院大学 人間科学部 3年

### (1) 海外プログラムを通しての学びや変化

バンコクでの5日間は、自分の実力不足を痛感すると同時に、新たな視点を得る貴重な機会となりました。特に現地の学生たちのプレゼンテーション能力の高さには圧倒されました。語彙の豊富さや表現のバリエーション、堂々とした振る舞いを目の当たりにし、自分がいかに狭い世界にいたかを思い知らされました。

また、街中の至る所に存在する富裕層と貧困層の格差や、活気あふれる屋台文化など、肌で感じる現地の熱量からも多くの刺激を受けました。当初は「発展途上」という先入観を持っていましたが、自分以上の才能や視点を持つ同世代と交流する中で、無意識の偏見に気づかされたことも大きな収穫です。環境が違っても、感情の本質は共通であることを実感し、真の相互理解への第一歩を踏み出せたと感じています。

### (2) 国内プログラム(企業視察・起業家との対話)を通しての学びや変化

LIBジュエリーの事例からは、データ分析に基づいたマーケティングの重要性を学び、自分たちのプランに欠けていた「価値の付け方」という視点を得ることができました。また、田口さんとの対話は、私の職業観を大きく変えるものとなりました。「不可能だと思わず、やっていく中で学ぶ」という言葉には強い説得力があり、ビジネスが社会貢献と直結する姿に深い感銘を受けました。特に、ソーシャルビジネスは通常の企業とは評価の観点が異なるというお話を聞き、自分が目指すべき方向性がより明確になりました。情熱を持って挑戦し続ける起業家の姿勢に触れたことで、自分も社会に価値を生み出す働き方に挑戦したいという意欲が湧いています。

### (3) 国内プログラム(グループワーク)を通しての学びや変化

グループワークでは、チーム全員で一つの目標に向かう難しさと喜びを学びました。最終準備の段階で意見の違いもありませんでしたが、議論を重ねる中で「全員参加型」で進めることの大切さを再認識しました。限られた時間の中でメンバーそれぞれの個性を生かすことは簡単ではありませんでしたが、最後までやり遂げたいという思いで取り組みました。講師からの厳しいフィードバックも自分たちの現在地を知る機会となり、この経験を通して、自分の強みが「平等性を意識したチームビルディング」にあると気づくことができました。

### (4) 私が考えるアントレプレナーシップ

「困難や不確実性の中でも立ち止まらず、周囲を巻き込みながら価値を生み出そうとする姿勢」であると考えます。今回の経験から、それは特別な才能ではなく、行動と試行錯誤の積み重ねによって培われるものだ実感しました。チームとして最善の解を導き出し、全員が納得して前に進めるよう働きかける姿勢が重要であり、社会に価値を提供するためには長期的に学び続ける覚悟が必要だと感じました。

### (5) 今後に向けて

この3ヶ月間で得た「社会課題への視点」と「チームで形にする力」を、今後のキャリアに活かしていきたいと考えています。特にメンタルヘルス分野で社会に貢献すること、そして英語を活かして国際的なビジネスに関わることを目標としています。今回学んだベルソナ設定やマーケティングの視点を日常の活動にも活かしながら、社会起業も将来の選択肢の一つとして視野に入れ、仲間とともに新しい価値を生み出していきたいです。

## 田崎 壮 九州産業大学 地域共創学部 3年

### (1) 海外プログラムを通しての学びや変化

二度目のバンコク訪問でしたが、都市部と周辺地域の深刻な格差を改めて痛感しました。特に集合住宅地域での視察を通じ、高齢者や障がい者への支援が不十分である実態を肌で感じたことは大きな衝撃でした。

一方で、現地の方々と直接対話することで、統計データだけでは見えない生活のリアルや課題の解像度が高まりました。この経験から、現場に足を運び、当事者の声を聞くことが問題解決の第一歩であると強く実感しました。

### (2) 国内プログラム(企業視察・起業家との対話)を通しての学びや変化

ポーダレス・ジャパン代表田口 一成さんの「事業が社会にどのような価値をもたらすか」という視点が非常に印象に残りました。単なる利益追求ではなく、社会へのインパクトを最優先する姿勢に感銘を受けました。

また、起業のノウハウは知識以上に、自ら実践し失敗する中でしか身につかないという言葉にも勇気をもらいました。失敗を前提に挑むマインドセットを学んだことで、英語でのコミュニケーションや未知の課題に対する心理的ハードルが大きく下がりました。

### (3) 国内プログラム(グループワーク)を通しての学びや変化

当初は英語への苦手意識から受動的になり、自分の意見を伝えられないもどかしさを感じていました。しかし、国内プログラム中盤からは「間違ってもいいからまず発言する」ことを意識し、前のめりな姿勢で議論に参加しました。

その結果、チーム内の疎通がスムーズになり、主体的にプロジェクトに関わることができました。言語の正確さ以上に、伝えようとする熱意と姿勢こそが、チームの納得感を高める鍵であることを学びました。

### (4) 私が考えるアントレプレナーシップ

「日常の中にある細かな変化や問題を敏感に捉え、解決に向けて即座に動き出せる力」だと考えます。今回のプログラムでは、文化や宗教観の違いから生まれる新たな視点に触れる機会が多く、自分の常識を疑う大切さを学びました。何か「おかしい」と感じたときに思考を止めず、まずは現場に飛び込んでみる。そうした小さな違和感をビジネスやアクションの種に変えていける人こそが、アントレプレナーシップの体現者であると確信しました。

### (5) 今後に向けて

これまで「英語ができるようになったら海外へ」と挑戦を後回しにしてきましたが、今後は準備が整うのを待たず、積極的に未知の環境へ飛び込んでいこうと考えています。今回のプログラムで得た「失敗を恐れないマインドセット」を武器に、まずは興味のある分野で具体的なアクションを起こします。異文化や異なる宗教観を持つ人々と協働した経験を活かし、多角的な視点から社会課題にアプローチできる人材を目指して成長し続けたいです。

鶴元 葵 西南学院大学 外国語学部 3年

## (1) 海外プログラムを通しての学びや変化

バンコクのスラム街視察を通じ、社会課題の解決には制度以上に「人の尊厳や背景への理解」が不可欠だと学びました。劣悪に見える環境でも「ここが居心地が良い」と語る住民の言葉に驚き、外部の尺度で支援を決めつける危うさを実感しました。

また、行政や民間が役割分担して課題に挑む姿と、依然として残る深刻な格差を目の当たりにし、現実の厳しさを痛感しました。チームとの協働では、他者を理解しようとする姿勢こそが力になると気づき、誰かの役に立ちたいという思いがより一層強まりました。

## (2) 国内プログラム(企業視察・起業家との対話)を通しての学びや変化

LIBジュエリーの事例から、物が溢れる現代では品質以上に「ブランディングと付加価値」が重要であることを学びました。

また、ポーダレス・ジャパン代表田口 一成さんとの対話で得た「ソーシャルインパクトを可視化してからビジネスを始める」という視点は、私に大きなパラダイムシフトをもたらしました。社会課題の解決を曖昧な理想で終わらせず、成果を測定可能な形に落とし込むことで初めて持続的な価値が生まれるのだと気づきました。複数人の視点を組み合わせることで新しい発想が生まれる、チームの可能性も強く実感しました。

## (3) 国内プログラム(グループワーク)を通しての学びや変化

「全員で作りに上げる」という目標を掲げ、最終発表前夜まで練習を重ねたことで、チームの一体感を得ることができました。一方で、議論がバンコクメンバー中心になる場面も多く、自分の知識やスキル不足により、主体的な貢献が十分にできなかった点には悔しさが残ります。しかし、英語力や文化の壁があっても、互いの役割を全うし、最後まで諦めずに一つの成果を完成させた経験は大きな自信となりました。スキルの差を埋めるための努力の必要性を痛感した、貴重なプロセスでした。

## (4) 私が考えるアントレプレナーシップ

「周囲と協働しながら、粘り強く考え抜き、物事を前に進める力」だと考えます。当初は自分の意見を伝えることにハードルを感じていましたが、メンバーが互いを否定せず受け入れ合う姿勢に触れ、実行力とは信頼関係の上に成り立つものだ学びました。特別な才能ではなく、どんなに困難でも「より良い答え」を模索し続ける姿勢そのものが大切です。今回の経験を通じ、多様な価値観の中で合意形成を図りながら価値を創造する、アントレプレナーシップの本質を体感することができました。

## (5) 今後に向けて

本プログラムで得た「主体的に考え、協働する姿勢」を糧に、今後はさらに多様な国際交流やビジネスプログラムに挑戦したいと考えています。築いた絆を一時的な経験で終わらせず、グローバルな友人関係として継続させていくことも目標の一つです。将来的には、福岡を拠点に自ら課題を見つけて行動できる社会人を目指します。自分が次世代のためにこのようなプログラムを企画運営できる側になり、今回の学びを社会に還元していきたいという大きな夢を持っています。

岡村 妃葉 九州産業大学 国際文化学部 1年

## (1) 海外プログラムを通しての学びや変化

バンコクのクロントゥーイ地区の視察が最も印象に残っています。スラムの現状を五感で捉えた際、当初は「かわいそう」という感情を抱きましたが、現地の方の「この暮らしに満足している」という言葉に衝撃を受けました。外部の人間が状況を決めつけるのではなく、当事者の価値観を尊重し、現地を知ることの重要性を痛感しました。

また、言葉が完璧に通じなくても、タイのメンバーが歩み寄りしてくれたことで、コミュニケーションの本質は言語スキル以上に「理解しようとする姿勢」にあると学びました。

## (2) 国内プログラム(企業視察・起業家との対話)を通しての学びや変化

ポーダレス・ジャパン代表 田口 一成さんとの対話で、「ビジネスに向く解を探すクイズのようなもの」という発想の転換に深く納得しました。社会課題の解決とマネタイズの両立に悩んでいましたが、起業家の重みのある言葉に触れ、視界が開ける思いでした。

具体的な事例紹介を通じて、ソーシャルビジネスの仕組みを構造的に理解できたことも大きな収穫です。これまで遠い世界に感じていた「起業」が、具体的な手法を伴う身近な選択肢として感じられるようになり、この貴重な学びを今後の指針にしたいと考えています。

## (3) 国内プログラム(グループワーク)を通しての学びや変化

グループワークでは、言語の壁や収益性に対する考え方の違いに直面し、何度も議論を重ねました。特にビジネスプランの持続性について不安を感じる場面もありましたが、タイのメンバーが嫌な顔ひとつせず耳を傾けてくれたことに救われました。お互いが納得するまで対話を諦めず、相手の意見を尊重しながら自分の考えを伝えることの重要性を再確認しました。このプロセスを経て、多様な背景を持つメンバーと信頼関係を築きながら、一つの形を作り上げる喜びを実感できました。

## (4) 私が考えるアントレプレナーシップ

「自分が達成したい目標に向かって、叶えるまで動き続けられる力」だと考えます。今回のワークでは、初めて目にするスラムの貧困問題をいかに自分事として捉え、解決策を導き出すかに心血を注ぎました。実際に事業を始動させるまでには至りませんでした。未知の課題に対して思考を止めず、理想に近づこうと奔走した経験は、私にとって大きな成長でした。社会の困難に対して当事者意識を持ち、行動し続ける姿勢こそがアントレプレナーシップの本質だと確信しています。

## (5) 今後に向けて

本プログラムを通じ、国内外に潜む未知の社会問題への関心が強まりました。今後は「何が問題で、誰がどのような悩みを抱えているのか」を深く知るため、まずは徹底的なリサーチに取り組むことが目標です。ネットの情報だけでなく、周囲の友人や大人との対話を通じて多角的な視点を養い、関心の幅を広げていきます。タイで得た友人たちとの繋がりも大切にしながら、学んだビジネスの手法や視点を活かし、社会に貢献できるアクションを起こしていきたいです。

# 令和7年度 「福岡県・バンコク都 アントレプレナーシップ人財育成事業」 募集要項

## 1 事業の目的

福岡県とバンコク都の友好交流の一環として、両地域の経済発展や社会変革に貢献するアントレプレナーシップ(起業家精神)を持つ人材の育成を図る。

## 2 事業内容

スタートアップに関心のある福岡県とバンコク都の大学生や社会人が互いの都市を訪問し、企業視察やフィールドワーク、社会起業家とのディスカッション等を通じて、社会課題の解決につながるビジネスプランの立案を行う。

## 3 主催者

福岡県・バンコク都アントレプレナーシップ人財育成事業実行委員会  
(事務局) 福岡県企画・地域振興部国際局国際交流課東南アジア係  
※業務の一部を(株)ボーダレス・ジャパンに委託

## 4 日程・内容(予定)

① 事前研修 @福岡市内	令和7年12月6日(土)、7日(日)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション(事業概要、両地域の紹介、渡航に関する注意事項等)</li> <li>・ビジネスプラン立案のポイント(講義、ワークショップ)</li> <li>・ソーシャルビジネスの優良事例紹介</li> <li>・グループ分け(4名[日本人2名、タイ人2名]×3グループ)</li> <li>・ビジネスプランのテーマ設定 等</li> </ul> <p style="text-align: right;">※バンコク都の参加者はオンラインで参加</p>	
② 海外プログラム @バンコク都	令和7年12月21日(日) ～26日(金) [4泊6日]
<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業訪問、フィールドワーク</li> <li>・ワークショップ</li> <li>・中間成果発表会</li> <li>・バンコク都庁表敬訪問 等</li> </ul>	
③ ブラッシュアップ研修(オンライン)	令和8年1月～2月頃(2回実施)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会起業家のアドバイスを受けながらビジネスプランをブラッシュアップ</li> </ul>	
④ 国内プログラム @福岡県内	令和8年2月8日(日) ～13日(金) [5泊6日]
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会起業家との対話</li> <li>・ワークショップ</li> <li>・企業訪問、フィールドワーク</li> <li>・福岡県庁表敬訪問</li> <li>・文化体験交流</li> <li>・最終成果発表会 等</li> </ul>	

※諸般の事情により変更になる場合があります。

## 5 募集内容

- (1) 募集人数 6名
- (2) **応募締切 10月24日(金)**
- (3) 応募資格 下記①～⑦のすべてを満たす者
  - ①日本国籍を有し、福岡県内在住もしくは福岡県内の大学及び企業等に通学・通勤する大学生、大学院生、社会人（事業開始時点で30歳以下であること）
  - ②英語を用いてタイ側参加者や関係者と積極的にコミュニケーションを図れること
  - ③社会課題の解決やソーシャルビジネスに興味・関心を持ち、アントレプレナーシップを身につける意欲があること
  - ④心身ともに健康であり、全ての行程に参加できること
  - ⑤主催者からの連絡に対し誠意をもって対応できること
  - ⑥事業において、主催者又は委託事業者が撮影した写真及び動画について、ホームページやSNS等での広報に用いることに同意できること
  - ⑦令和6年度実施の同事業に参加していないこと

## 6 応募方法

**STEP①** 右のQRコードまたは下記URLにアクセスし、**仮登録**を行う。

<https://shinsei.pref.fukuoka.lg.jp/hFuO7tcH>

※仮登録はできるだけ早めに行ってください。

**STEP②** 仮登録後に届く確認メールの本文に記載されているURLから、専用の申込フォームにアクセスし、必要事項（所属、応募動機、関心のある社会課題など）を入力のうえ提出する。

仮登録はコチラ



QRコードは(株)デンソーウェアブの登録商標です。

## 7 参加者の選考

- (1) 選考方法  
書類選考・面接（積極性や協調性、英語能力等を総合的に評価します）
- (2) 選考スケジュール（予定）

一次選考（書類選考）結果通知	10月下旬
二次選考（面接）	11月6日（木）～8日（土）
参加者決定通知	11月12日（水）
- (3) 留意事項
  - ・面接選考は福岡市内で行います。会場は対象者に別途お知らせします。
  - ・面接にかかる交通費については、応募者負担とします。
  - ・各選考の結果はメールで通知します。

## 8 経費、損害等の負担

- (1) 参加費  
80,000円 ※参加者決定後、速やかに納入していただきます。
- (2) 参加費の返還、キャンセル料等  
参加費は原則として返還しません。なお、参加者が自己の都合により辞退した場合に生じるキャンセル料等については、本人が全額を負担するものとします。

(3) 参加者が負担する経費

- ・パスポート取得にかかる費用
- ・海外旅行傷害保険料（加入必須）
- ・バンコク都滞在に係る費用の一部（お土産代等の個人的経費）
- ・各集合場所までの往復交通費

(4) 主催者が負担する経費

- ・(3)の経費を除くプログラム中の諸経費（宿泊費\*、交通費、食費等）

\*タイ側参加者と同じホテルに宿泊していただきます。

(5) 損害等への対応

プログラム中の災害、病気、事故で主催者の責めに帰さない事由によって生じる参加者の損害等については、主催者は責任を負いません。

## 9 参加資格の取り消し

- ・参加が決定した後、申込内容に虚偽があることや応募資格を満たさないことが判明した者のほか、参加者として不適切と認められる者については、参加資格を取り消します。
- ・上記の場合、主催者は、すでに主催者が負担した経費の一部または全部について、資格を取り消された者に対し請求することができるものとします。

## 10 その他の留意事項

- ・参加決定時点でパスポート未取得の場合は、速やかに取得手続きを行ってください。
- ・パスポートは6か月以上の残存有効期限が必要です
- ・プログラム中にノート PC（タブレット可）を使用しますので、各自準備をお願いします。

**【問い合わせ先】**

福岡県・バンコク都アントレプレナーシップ人財育成事業  
実行委員会事務局（福岡県国際交流課 東南アジア係）

電話番号：092-643-3218（平日 9:00～17:00）

E-mail： [nakagawa-k1828@pref.fukuoka.lg.jp](mailto:nakagawa-k1828@pref.fukuoka.lg.jp)

担 当：中川、里道（さとみち）

# ソーシャル アントレプレナー プログラム

バンコクの学生と挑む  
社会課題解決プログラム

より良い社会づくりには、新しいアイデアを生み出し挑戦する力(アントレプレナーシップ)を持った人材が不可欠です。このプログラムでは、福岡県とバンコク都の参加者が互いの都市を訪問し、企業視察やフィールドワーク、社会起業家とのディスカッション等を通じて、社会課題の解決につながるビジネスプランの立案を行います。あなたも、この挑戦に参加してみませんか？

## 参加者募集



応募締切 **10/24** 金



## PROGRAM

### 01 学びの準備

#### 事前研修

12.6土~7日

@福岡

### 02 現地での学び

#### 海外プログラム

12.21日~26金

@バンコク

### 03 振り返りとブラッシュアップ

#### ブラッシュアップ研修

1~2月で2回実施 (2026)

@ONLINE

### 04 発表とフィードバック

#### 国内プログラム

2.8日~13金 (2026)

@福岡

実施場所 ..... バンコク都・福岡県

募集人数 ..... 6名

参加費用 ..... 8万円

対象 ..... 日本国籍を有し、福岡県内在住、もしくは福岡県内の大学及び企業等に通学・通勤する、大学生、大学院生、社会人(30歳以下)

※海外プログラムの渡航費用込み。その他、パスポート取得費用、事前研修に係る交通費などは参加者の自己負担となります。

選考フロー .....

STEP1 エントリー



STEP2 書類選考



STEP3 面接

詳細はこちらを  
**チェック!**

もっと知りたい方はこちら  
プログラム内容 ▶



話を聞いてみたい方はこちら  
オンライン説明会 ▶



# 昨年度のプログラムの様子



## 01 学びの準備

### 事前研修

@福岡

社会課題を解決するビジネス(=ソーシャルビジネス)の基礎を学び、海外プログラムに向けた準備を行います。



## 02 現地での学び

### 海外プログラム

@バンコク都

バンコク都メンバーと合流。企業視察やワークを通じてビジネスプランニング開始。メンバー同士の交流会、バンコク都庁への訪問も!



## 03 振り返りとブラッシュアップ

### ブラッシュアップ研修

@ONLINE

実際に途上国でソーシャルビジネスを実践している起業家と共に、ビジネスプランをさらにブラッシュアップします。



## 04 発表とフィードバック

### 国内プログラム

@福岡

いよいよビジネスプランの発表会!発表後には起業家の方から素敵なコメントをいただき皆さん達成感に溢れていました!

## VOICE & STORY

参加者の声



自由な発想で挑戦できたことが、自信につながった。

初めてビジネスプランという形で社会課題に向き合いましたが、多くの学びがありました。英語で情報を調べ、発表する作業は難しくもありましたが、福岡やバンコクの取り組みに触れ、今後の地域づくりについて考える良いきっかけとなりました。専門的知識がなかったからこそ、自由な発想で柔軟なアイデアを出せた部分もあり、自信にもつながりました。



現地交流を通じて、深い学びを築くことができた。

現地での観光や交流を通じて、タイやバンコクの文化、社会課題について学び、ビジネス提案に活かしたいという思いで参加しました。英語力に不安がありましたが、想像以上に意思疎通ができ、現地の学生が観光スポットやおすすめの食べ物を紹介してくれたり、写真を一緒に撮ったりと温かく迎えてくれました。そのおかげで楽しく学びながら深く関係を築くことができ、本当に感謝しています。



協力を通じて、信頼と対話の大切さを学ぶことができた。

今回のプログラムでは、ビジネスプランの組み立て方だけでなく、チームでの信頼関係や対話の重要性を学びました。今後は、所属しているサークルでイベントを企画する際に、今回学んだ手法や視点を活かしていきたいと考えています。また、「起業」という選択肢も自分の将来の可能性の1つとして視野に入れながら、自分なりのアクションを起こしていきたいと思っています。

まずは話を聞いてみる!



オンライン説明会

9/26 金, 10/6 月  
19:00-20:00

参加はこちら





【編集】 福岡県・バンコク都アントレプレナーシップ人財育成事業実行委員会  
株式会社ボーダレス・ジャパン

【発行】 2026年3月